

会社概要 (2018年3月31日現在)

商号	株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス Imagica Robot Holdings Inc.
創立	1935年2月18日
本店所在地	東京都品川区
事務所所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番2号 内幸町東急ビル11階
資本金	32億4,491万5,250円
代表者	代表取締役会長 長瀬文男 代表取締役社長 塚田真人
従業員数	3,842名(1,220名)

※ 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に外数で記載しております。

株式の状況 (2018年3月31日現在)

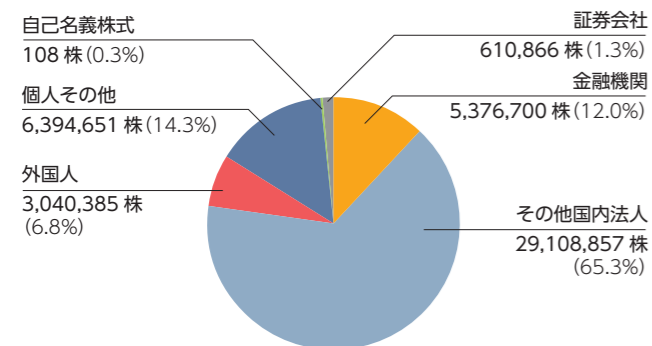
発行可能株式総数	150,000,000 株
発行済株式総数	44,531,459 株 (自己株式108株を除く)
株主数	6,092名

大株主 (上位10名)

	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社クリアート	25,779	57.89
株式会社三井住友銀行	1,244	2.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,138	2.56
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	848	1.90
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	757	1.70
奥野敏聡	615	1.38
三井住友信託銀行株式会社	512	1.15
イマジカ・ロボット ホールディングス 従業員持株会	478	1.08
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	443	1.00
長瀬文男	403	0.91

※ 持株比率は自己株式数(108株)を控除して算出しております。

株式の分布状況



株式会社 イマジカ・ロボット ホールディングス

〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番2号 内幸町東急ビル11階
TEL: 03-6741-5750

役員 (2018年6月26日現在)

代表取締役会長	長瀬 文男
代表取締役社長社長執行役員	塚田 真人
取締役執行役員	森田 正和
取締役	布施 信夫 奥野 敏聡
社外取締役	ニコラス・エドワード・ベネシュ
取締役 常勤監査等委員	安藤 潤
社外取締役 監査等委員	中内 重郎 千葉 理
執行役員	大久保 力 中村 昌志

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 0120-782-031(フリーダイヤル) http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	https://www.imagicarobot.jp/ir/announcement.html
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
証券コード	6879

IRメール配信サービスのご案内

当社IR情報をご登録のメールアドレスにお知らせいたします。



<https://www.imagicarobot.jp/ir/irmail.html>



Imagica Robot Holdings Inc.

2018年3月期 株主通信

2017.4.1 ▶ 2018.3.31 | 証券コード6879



©東京国際プロジェクションマッピングアワード実行委員会



代表取締役社長 塚田 真人

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

2018年3月期における映像関連市場は、デジタル/ネットワーク化の加速に伴い、映像表現の高度化、映像利用の多様化、映像伝送システムの高度化が進展しております。

そのような環境の中、当社グループは映像ビジネスにおいて幅広い事業展開を行っており、映像コンテンツ、映像制作サービス、映像システムソリューションを世界最高レベルでお届けできる Only Oneのクリエイティブ&テクノロジー集団を目指すことを経営ビジョンに掲げ、グループの総合力を発揮し、収益力及び財務体質を強化することに取り組んでまいりました。

これらの結果、当連結会計年度における当社グループの業績につきましては、売上高は913億51百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益は24億24百万円(前年同期比35.6%増)、経常利益は24億24百万円(前年同期比20.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は29億37百万円(前年同期比72.1%増)となりました。

グループ経営理念と目指す姿

グループ経営理念

私たちは、誠実な精神をもって新たな価値創造につとめ、世界の人々に「驚きと感動」を与える映像コミュニケーショングループを目指します。

2020年にありたい姿

映像コンテンツ、映像制作サービス、映像システムソリューションを世界最高レベルでお届けできる Only Oneのクリエイティブ & テクノロジー集団

2020年に向けたグループ基本戦略

- ① 成長ドライバーによる事業拡大
- ② 利益創出力の向上
- ③ 経営基盤の強化

中期経営計画2020達成に向けた基盤確立を

▶ 2019年3月期の重点課題

2019年3月期におきましては、中期経営計画2020の達成に向け、グループ名も新たに「IMAGICA GROUP」とし(2018年10月1日より)、以下の項目を重点課題と捉え、積極的に取り組んでまいります。

1. 成長基盤の確立: 成長事業への先行投資

成長基盤を確立するために、下記2つの軸を中心に先行投資を進めてまいります。

- ① コンテンツ投資、他社事業との協業による新しい価値の創造
 - ・映像コンテンツ事業における、コンテンツへの積極的な投資
 - ・ローカライズ事業における、ダビングスタジオ増設やITシステム等への投資
 - ・外部団体や企業との連携による様々な映像技術を使ったビジネスの開発
- ② 新しい映像技術やIT技術に対応した新規事業の創出
 - ・当社グループのベンチャーキャピタルによる、有力ベンチャー企業への新規投資
 - ・グループR&D部門による、映像制作のための先端技術の情報収集と事業化に向けた研究開発の推進
 - ・社内ベンチャー制度を活用した、グループ企業横断の新規ビジネス創出と事業化
 - ・映像システム事業における、光学計測事業分野の研究開発推進と事業領域の拡大

2. 収益基盤の構築

強固な収益基盤を構築するために、以下の施策を実行してまいります。

- ① IMAGICAと子会社2社の統合による映像制作サービス事業における成長分野での受注拡大と生産体制の再編、受注体制と管理業務の効率化
- ② ローカライズ事業におけるオペレーションの改善と顧客別マージンの向上
- ③ セグメント内の事業別収益管理の徹底と向上、事業ポートフォリオの見直し最適化

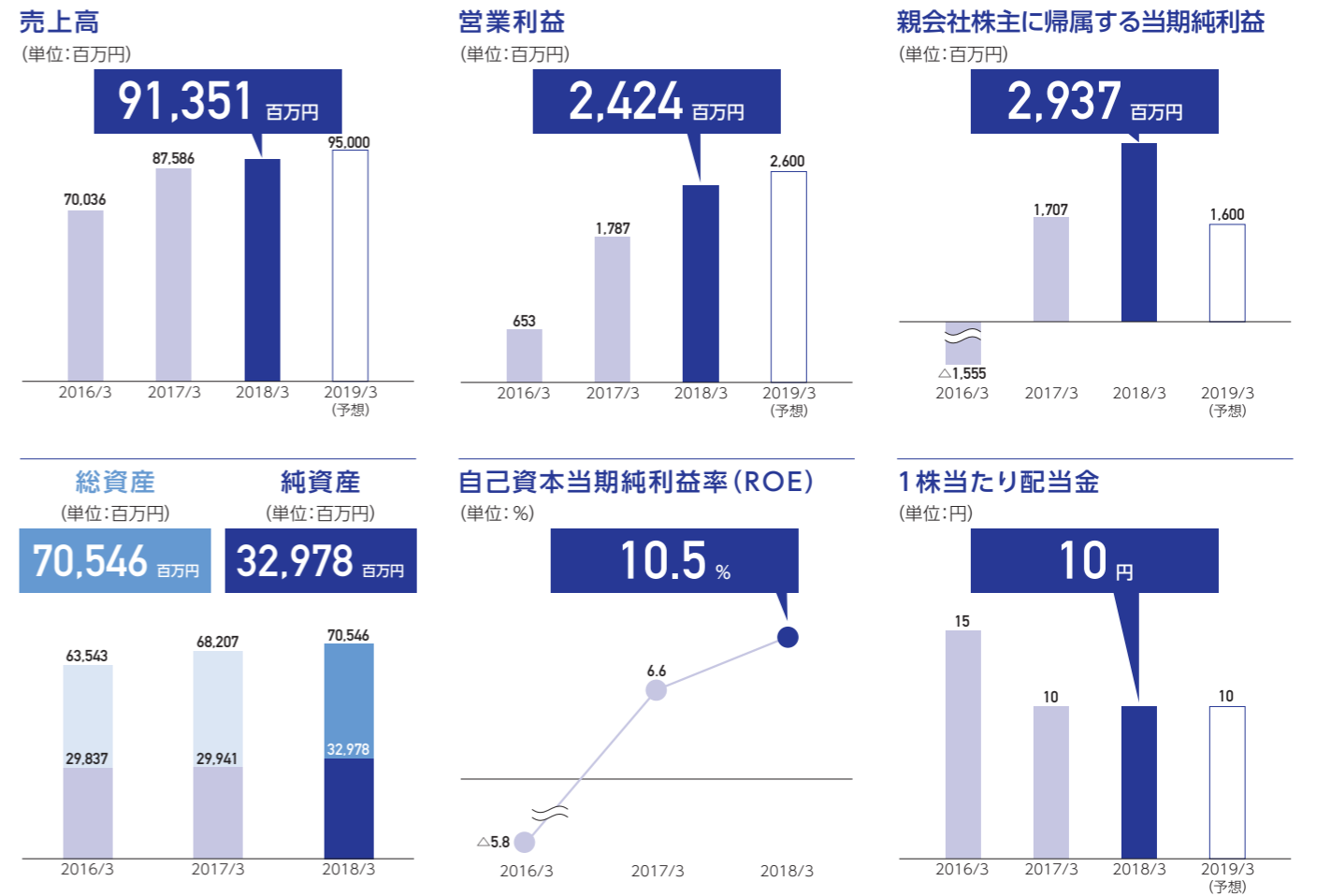
3. 新しいグループへの変革

グループ企業力を結集し、総合力でお客様と社会のニーズに応えてまいります。

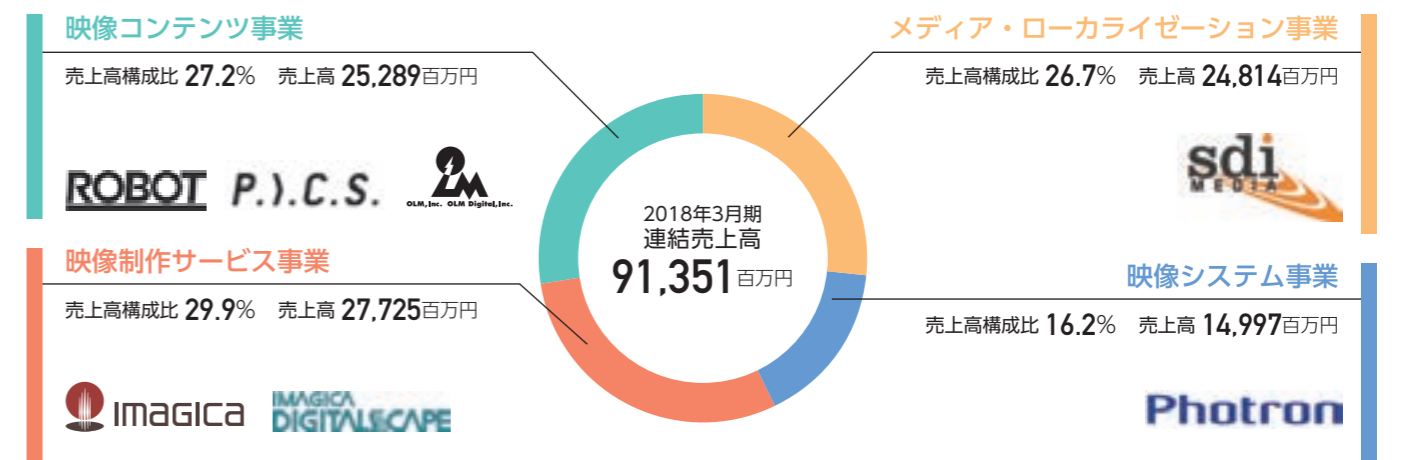
- ① グループ名を「IMAGICA GROUP」に変更し、グループブランディングを展開
- ② グループとしてワンストップソリューションの提供を推進
- ③ グループ全体として働き方改革を推進
- ④ グループ経営を支える人材の育成

2018年3月期のポイント

- POINT 1 売上高** 売却した放送事業(IMAGICA TV)の売上減少分を各事業でカバーし、前年同期比4.3%増収を達成(IMAGICA TV売却分を除けば、10.5%増収)
- POINT 2 営業利益** メディア・ローカライゼーション事業の収益改善等により、前年同期比35.6%増益(IMAGICA TV売却分を除けば、45.1%増益)



豊かな映像コミュニケーションを実現するイマジカ・ロボットグループ



※ 連結売上高91,351百万円は、事業セグメント売上高の合計額と連結調整額を含んでおります。また売上高構成比は、連結調整額を除く、事業セグメント売上高のみの合計に対する構成比率です。

01 世界初、12Kワイド 未来型スーパーライブビューイング 「VISIONS — “TOKYO GIRLS COLLECTION 2018 SPRING/SUMMER”」を実施



映像配信高度化機構の高度映像配信技術実証プロジェクトの一環として、NTT、NTTドコモと連携、3月31日に横浜アリーナで行われた「東京ガールズコレクション」の未来型スーパーライブビューイング「VISIONS — “TOKYO GIRLS COLLECTION 2018 SPRING/SUMMER” powered by Kirari!」を、表参道ヒルズ本館地下3Fスペース オーにおいて実施しました。世界初となる横方向12Kピクセルの映像を映し出す大型ワイドスクリーンで、複数台の4Kカメラによって収録した映像を、継ぎ目の無いパノラマ映像にリアルタイム合成してライブ配信、あたかも横浜アリーナで見ているかのような臨場感のある映像体験を創造しました。

これからも、「テクノロジー」「クリエイティブ」「コンテンツ」の融合によって、新しい未来型のメディアエンタテインメントを切り拓いていきます。

02 P.I.C.S.、次世代のライブショー「EXISDANCE」を開発

パナソニック株式会社の最新技術であるハイスピードトラッキングを基盤にした、3DプロジェクションマッピングシステムをP.I.C.S.が開発。

「EXISDANCE」は日本最強の格闘技である空手と日本のテクノロジー & カルチャーを象徴するような身体の動きをミックスさせたダンスに、3Dプロジェクションマッピング映像が自動的に高速追従し、その世界観を拡張演出するという次世代のライブショーです。

メイキングや展示会で発表された模様などを収録したムービーをぜひご覧ください。

<https://vimeo.com/228062364>



03 OLM、マレーシアに初の2Dアニメスタジオ「OLM Asia」を設立



OLM Asiaはマレーシア初の2Dアニメスタジオとして、2017年12月、Cyberjaya地区に制作拠点を設立しました。

当面はデジタル作画による「動画」「仕上げ」業務を中心に行ってまいります。今後はアニメ制作ラインのキャパシティ拡大を図るとともに、現地においてOLMで培ったアニメーション制作研修を実施し、高度人材を育成します。そして、アジアにおけるアニメーション制作の一大拠点になるよう積極的に推進してまいります。

04 イマジカデジタルスケープ、「東京テストスタジオ」を東京・飯田橋に開設

イマジカデジタルスケープは、デジタルコンテンツ事業「QA(品質保証)サポートサービス」の関東拠点である「東京テストスタジオ」を、昨年10月に移転し飯田橋に開設しました。サービスの主軸となるデバッグ事業*は、9年前に大阪を拠点にスタートし、現在では売上規模が9億を超える規模に成長しました。業容拡大に伴い従業員も増え、このスタジオは、働きやすさも考慮しオフィス環境に配慮しました。今後は業務系システムのテスト対応など、業務領域の拡大も目指してまいります。

* デバッグとは、完成に近づいたゲームソフト、携帯電話のコンテンツ等を実際にプレイして、ゲームプログラムの誤り(バグ)が無いかチェックする仕事です。



05 コスモ・スペース、平昌オリンピックでジャンプとビッグエアの国際映像配信業務を担当



平昌オリンピックにコスモ・スペースから4名のカメラマンがジャンプとビッグエアの国際映像配信業務にOBS(オリンピック放送機構)の一員として参加しました。ホストブロードキャスターという重要な業務で、ヨーロッパを中心に各国から各中継機材の専門スタッフが集まって一つのチームを作ります。

前半は開会式の前日から始まり、氷点下20℃を下まわる極寒の中、連日連夜の中継業務で、ジャンプだけでも2,000本近くを撮影、後半戦はビッグエア中継も加わり、過酷なスケジュールでしたが、全世界にオリンピックで戦う選手や観客たちの臨場感と感動を伝えるべくカメラを振り続け、何とか全フィードを終えることが出来ました。

また国内ではNHKの平昌オリンピックの4K・8Kスーパーハイビジョンパブリックビューイング業務も担当しました。

06 フォトロン、国産・自社開発テロップシステム「TFX-Artist」の新バージョンを発売開始

「TFX-Artist」は、2016年8月に発売した、国産・自社開発ならではの柔軟性と高い技術力で、お客様のご要望を取り入れて進化し続けるテロップシステムです。

動画・静止画に対応した自由度の高いテキスト機能や、幅広い表現を可能にするVFXプラグイン/グラデーションのほか、他システムとの連携を実現するファイル入出力機能を搭載しています。

2017年8月にVer.2.0、2018年3月にVer.2.1とAdobe Premiereプラグインを発売。現在では民放各局のバラエティー番組でのテロップ制作に欠かせないツールとして使われております。



新しいグループへの変革

当社は2018年10月1日をもちまして社名を「株式会社IMAGICA GROUP」に変更することといたしました。

▶ 背景・目指す姿

イマジカ・ロボットグループは、デジタル／ネットワーク化の加速に伴う映像表現の高度化、映像利用の多様化、映像伝送システムの高度化を背景に事業を拡大し変容してまいりましたが、ますます進展する映像市場の構造的変化、映像メディア・コンテンツの技術革新の中で、グループが変革し更なる成長を一体となって目指していくにあたり、名称を変更し、新たなロゴデザインを展開いたします。

ラテン語で「映像の」を表すimagicinaから発した「IMAGICA」をグループ共通のキーワードとして、全グループ企業の集合体を表現する名称に冠しました。

私達グループは「映像」を核として世の中に貢献してまいります。

株式会社 **IMAGICA GROUP**
IMAGICA GROUP Inc.

IMAGICA
GROUP

▶ ロゴデザインに込めた思い

新しいグループロゴは、私達の理念や目指すべき姿をデザインに反映しています。

● シンプルかつ先進的なロゴタイプ

映像の世界で新たな価値を真摯に誠実に創造していく決意

● アーク

事業領域をグローバルに見据えることと同時に、クリエイティブ&テクノロジー集団として、グループ各社が一体となって前進していくという思い

● 明るいブルー

青系の色で「誠実さ」を表しながらも明るい色合いのブルーとグレーとの二色使用で「新しさ」「変化」を表現

IMAGICA GROUP

IMAGICA GROUPの価値観 “4We's”

We lead

私たちは先駆ける。
社会の変化にいち早く対応し、業界をリードする存在であり続けます。

We collaborate

私たちは協働する。
グローバル&ワンストップという強みを生かし、お客様に高い価値を提供します。

We serve

私たちは貢献する。
高い技術と誠実な精神を持って、どのような状況においてもお客様の要望に応え続けます。

We discover

私たちは発見する。
人の心を動かすためのカギを、そして日常の中でも仕事を進化させるための発見を探し続けます。

100年前と100年後をつなぐ事業

映像継承 アーカイブ & レストレーション

今回は、当社グループが進めている古い映画フィルムの修復事業をご紹介します。

今、世界中の映画祭で注目されるクラシック映画部門。特に日本映画は世界各国の映画祭で、毎年その作品性が改めて高い評価を受けています。

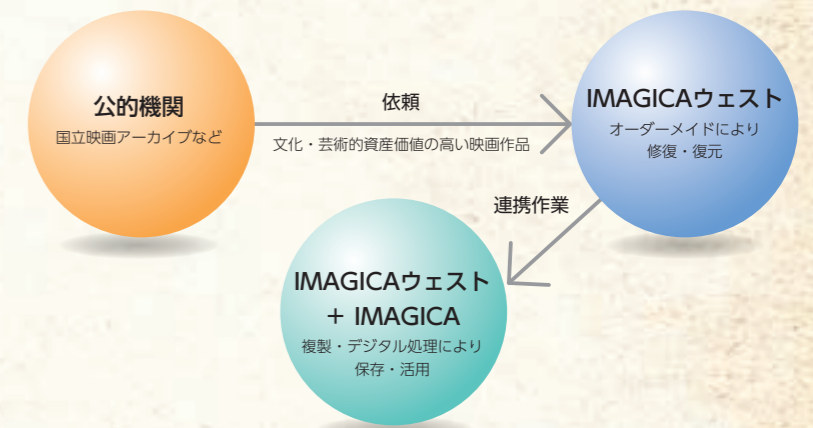
IMAGICAウェストは今からおよそ20年前からこうした古い映画フィルムの修復・復元・保存・活用のためのアーカイブ事業をIMAGICAと共に進めています。

フィルムは保存状態が悪いと記録された画像はダメージを受け、症状が進めば二度と見られない状態になります。一般的に劣化は30年で始まることから、日本中に劣化したフィルムが数多く眠っており、貴重な映像が失われようとしています。

フィルムアーカイブ事業は、商業ラボとして培った80年以上の知識や技術を生かし、劣化が進んでいるフィルムを修復・復元して甦らせ後世に遺すことを目的としてスタートしたプロジェクトです。

記録メディアの移り変わりが激しい今日において、フィルムは100年以上変わらず残った唯一のメディアです。復元したフィルムは、保存環境を整えれば今後100年以上残すことが可能だと言われていすし、デジタル化により更にその作品をより広く活用することも可能です。フィルムアーカイブ事業は修復・復元から保存、活用のステップに入り、100年後の未来につながる事業へと進化しています。

● 修復・復元作業の流れ



● 復元作業の現場例



これまでに修復した参考例

- ・小津安二郎監督映画「東京物語」(2018年カンヌ国際映画祭で特別上映)
- ・映画「地獄門」4Kデジタル復元版(2017年東京国際映画祭・歌舞伎座スペシャルナイトで上映)

● 劣化の激しいフィルム例

